

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 5 月 23 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02310

研究課題名(和文) 近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の場

研究課題名(英文) Human Interaction and "Places" of Literary Production in the Kamigata Literary Circle in the mid-to-late Edo period.

研究代表者

飯倉 洋一 (IIKURA, Yoichi)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：40176037

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は近世中後期の上方文壇に注目し、漢詩文や和歌和文という雅文芸を中心に、その文芸の生成を、人々の繋がりや場に注目して、総合的に考察した。特に漢詩文や和歌和文の生成の場の様相を、俗文芸や絵画やその他の諸芸との関わりも考慮に入れつつ、具体的に明らかにし、ともに「学び」とも「戯れ」することで生成する近世中後期上方の文芸の実相に迫ることをめざした。親王・公家・文人らが、様々な文芸創造の場、学芸交流の場を有して活動したことの意味を、個別的な事例に即して調査研究し、研究会で相互に情報を交換しながら、総合的に考究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は近世中期以後の漢詩・和歌を中心とする雅文学の理解において、人的交流と文芸生成の場の考察が重要であることを示すことで、文芸が個人の生産した作品であるという一般的な考え方を大きく転換する学術的な意義を有する。研究成果の中でも、小沢蘆庵の自筆本『六帖詠藻』の人的交流データと、妙法院日次記の人的交流年表稿は、人的交流の具体的様相を知ることが出来、歴史学や美術史学にも大きく貢献するものである。

研究成果の概要(英文)：This research focuses on the Kamigata literary circles of the mid-to-late Edo period, and examines the formation of these arts, particularly the elegant arts of Chinese poetry and Waka poetry, especially, focusing on the connections among people and "places". In particular, the author sought to clarify the specific aspects of the "places" in which Chinese poetry and waka and wabun were created, while also taking into consideration their relationship with popular literature, painting, and other arts, and to approach the reality of the literary arts of the Kamigata region in the mid-to-late edo period, which were created through "learning" together and "playing" together. The significance of the fact that the imperial family, court nobles, and literati had various "places" for the creation of literature and art, as well as for the exchange of arts and sciences, was comprehensively investigated through research on individual cases and through the exchange of information at study groups.

研究分野：日本近世文学

キーワード：人的交流 上方文壇 妙法院宮 小沢蘆庵 真仁法親王 堂上 地下 六帖詠藻

1. 研究開始当初の背景

30年ほど前までの近世中後期の思想史・文学史的研究の多くは、個人の著作や伝記を中心に据えて行われてきたが、近年は、「詩壇(歌壇・文壇)」「文化圏」「ネットワーク」等のキーワードで、塾・社・会・連などと呼ばれるグループの文化的活動や、その人的交流の具体相が徐々に解明されつつある。とりわけ上方は、伝統的な文化都市で雅文芸の中心であった京都と、新興の経済都市で新しい文芸を続々と生み出した大坂を有し、相互の交流も活発であった。皆川淇園の私塾弘道館、妙法院宮真仁法親王の文芸サロン、歌人小沢蘆庵の観荷堂グループ、片山北海を盟主とする混沌詩社、コレクター木村蒹葭堂とその周囲など、様々な文芸グループの実態が明らかにされつつある。そのような研究状況の中、代表者は、2010年度～2013年度、科研基盤研究(B)「近世上方文壇における人的交流の研究」(以下「人的交流科研」と称する)を立ち上げた。同研究は、近世上方(京都・大坂)文壇におけるさまざまな人的交流について、従来の個々の人物研究・文壇史研究を総合的に把握した上で、「近世上方文壇人的交流年表」の作成を基盤としながら、上方と江戸、上方と地方、京都と大坂、堂上と地下、文学と書画、雅文壇と俗文壇などの越境的交流にとくに注目し、多角的な視点からこれを分析・検討し、近世文学史・近世文化史へのあらたな視座を提示することを目的とした。特に小沢蘆庵とその周囲については、膨大な人的情報が掲載されている蘆庵の『六帖詠藻』を材料に、妙法院宮真仁法親王サロンや非蔵人ネットワーク、京都の書肆、上田秋成との交流など、様々な人的交流を明らかにすることができた。研究成果報告書には、3000項目を超える「近世上方文壇人的交流年表」、人的交流データの宝庫である小沢蘆庵の歌集『六帖詠藻』の翻字を収め、CD版300点と冊子版35冊(紙幅の関係で『六帖詠藻』のみ所載)を作成、ほぼ全てを配布し、好評を得た。『六帖詠藻』は静嘉堂文庫所蔵蘆庵自筆本による翻刻が2017年2月に出版された(蘆庵文庫研究会編『小沢蘆庵自筆 六帖詠藻 本文と研究』和泉書院)。

本研究は、上記の「人的交流科研」を継承・発展させようとしたものである。特に漢詩文や和歌和文の生成の場の様相を、俗文芸や絵画やその他の諸芸との関わりも考慮に入れつつ、具体的に明らかにし、ともに「学び」ともに「戯れ」ることで生成する近世中後期上方の文芸の実相に迫ることをめざした。この場合の場とは、妙法院宮サロンの例に取れば、妙法院という空間的な場所の意味に加えて、歌会や席画や月見などの行為的な場の意味があるが、近世文芸の特質を考えると、後者との関わりは避けて通れない。「人的交流科研」では、いかなる人物がいかなる人物と繋がっているかを主眼に、交流年表を作成したが、今回は文芸が生まれる如上の二つの場の具体的な在りように注目した。

2. 研究の目的

近世中後期における上方の文芸生成に関わる場は無数に考えられるが、本研究では、「人的交流科研」の継続・展開という意味から、京の雅文壇を中心とする上方文壇の人的交流に与かる場を検討することを基本的な作業とし、その周辺の人物とその交流に考察を拡げた。また「人的交流科研」ではフォローしきれなかった、学芸グループの場や、漢詩文グループの場、さらにはそれぞれのグループが俗文壇と関わる場にも着目し、領域横断的視野から、文学史への新しい視座を提案しようとした。

3. 研究の方法

(1) 『六帖詠藻』等から見る人的交流と 場 の研究

「人的交流科研」の科研成果報告書（2014年2月）と自筆稿本の出版（2017年2月）で、人的交流を跡付ける豊富な資料である『六帖詠藻』の翻字が公になったが、人的交流がいかなる 場 で行われ、文芸となって花開いたかについての調査は、これからの課題である。『六帖詠藻』に認められる当座歌会・追悼歌会・祝賀歌会・画賛・詩歌合などの例を具さに検討し、蘆庵と妙法院宮およびその周囲の人的交流と 場 が創る文芸の在り方を明らかにする基礎データとして、『六帖詠藻』の人的交流記事を抜き出し、入力した。

(2) 妙法院宮真仁法親王の文芸交流と 場 の研究

寛政8年分まで刊行されている『妙法院日次記』のうち、真仁法親王関係の記述がある安永5年以降の記事から、学芸・文芸関係の人的交流と、それがどこでどのように行われたかをピックアップし、年表とした。

(3) 漢学者・漢詩人と公家の人的交流と 場 の研究

堂上の雅文壇の人的交流や 場 については、宮廷歌会や和歌の古今伝授を通して、研究が着々と重ねられているが、堂上の漢学や漢詩文については開拓されていない。本研究では天皇・親王・公家が主催した詩会及び親王・公家と漢詩人の交流関係を取り上げた。

(4) 京都上賀茂山本家における学芸・文芸交流の研究

京都上賀茂神社の社家山本家は、近世後期屈指の文人賀茂季鷹を出した家で、その所蔵資料は従来から高い評価が与えられ、注目されてきた。文学関係についてはいくつかの報告があるものの、多数の馬術書など未公開資料を含む多くの資料がなお当家に存する。本研究では、2012年に新たに見いだされた数百点の山本家資料を調査し、その目録を作成し、近代の私的文書や活字本を除いて公開することとした。

(5) 雅俗文壇の交差する 場 と仮名読物との関係の研究

上方の名所図会や読本には、公家や地下官人の序文を有すること、読本の中に公家の古典論が登場することなど、雅俗が交差する興味深い現象がみられるが、かかる視点から、この時期の俗文芸を一度見直す必要がある。冷泉家の門人であった三橋成烈の『新斎夜語』『続新斎夜語』の中の源氏物語論や、『伊勢物語』を議論する『垣根草』などは、それを考える手がかりになる。公家と地下の人的交流に基づき、その交流にいかなる 場 が関わるのかを考慮しつつ、読本の作品論に新たな展望を拓いた。

4. 研究成果

本研究は、従来の縦割りのジャンル別研究とは異なり、具体的な文芸生成の 場 を見ていくことで、ジャンル横断的な文芸研究を提案しようとするものである。本研究で対象とする 場 は、従来その文化史的役割を検討されたことがないものの、手をつけられていない豊富な資料に恵まれている。従来どちらかと言えば、時間軸で考えられてきた、文芸生成のありようを、空間的にとらえるという意味で、大きな発想の転換だといえ、これらの調査研究は、文学史のみならず文化史・思想史・美術史研究に資するところも大であ

ると考えられる。文芸形成における人的交流と 場 を関連付けた共同研究は従来全くみ
なかつたものであり、大きな意義を持つと考えられる。

本研究の成果として特に挙げるべきは、JSPS 科研費 JP17K02479（代表者盛田帝子）との
共同企画で2018年6月に刊行した『文化史のなかの光格天皇-朝儀復興を支えたネットワ
ーク』（勉誠出版）および冊子として2022年3月に刊行した研究成果報告書『近世中後期
上方文壇における人的交流と文芸生成の 場 』である。後者に収められた「六帖詠藻人
的交流データ」と「妙法院日次記人的交流年表稿」は、Webサイトに検索機能付きで公開
されており、文学・歴史・美術史研究者に大きな便益を与えることになる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計30件（うち査読付論文 6件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 1
2. 論文標題 秋成の学問は創作とどう関わるのか	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古典文学の常識を疑う 縦・横・斜めから書き換える文学史	6. 最初と最後の頁 200-203
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 1
2. 論文標題 妙法院日次記人的交流年表稿から見えてくること-地下との交流を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の 場 研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 31-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 19号
2. 論文標題 光格天皇主催御会和歌年表－享和期・文化期編	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大手前大学論集	6. 最初と最後の頁 pp.127-178
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 76号
2. 論文標題 光格天皇と大阪天満宮	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 大阪天満宮社報 てんまてんじん	6. 最初と最後の頁 pp.8-9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 33号
2. 論文標題 藤島宗韶詠草（宝暦七年分）解題と翻刻	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 京都女子大学宗教・文化研究所研究紀要	6. 最初と最後の頁 pp.63-96
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 58号
2. 論文標題 蘆庵本『寛平御時中宮歌合』再考 神宮文庫本との関係を中心に （付）刈谷市中央図書館村上文庫蔵『寛平御時中宮歌合 / 前麗景殿女御歌合』翻刻	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 世界仏教文化研究所論叢	6. 最初と最後の頁 pp.22-44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 19
2. 論文標題 正保版『二十一代集』の変遷 様式にみる書物の身分 （付）八尾助左衛門・勘兵衛・甚四郎出版略年表	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 雅俗	6. 最初と最後の頁 pp.4-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 1
2. 論文標題 「文粹もの」における朱子学と陽明学の折衷	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 鈴木健一編『明治の教養 変容する 和 漢 洋』（勉誠出版）	6. 最初と最後の頁 154-175
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 第7号
2. 論文標題 『作者評判千石節』考	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 9-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 第18号
2. 論文標題 光格天皇主催御会和歌年表 寛政期編	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 大手前大学論集	6. 最初と最後の頁 61-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 第33号
2. 論文標題 室鳩巢の擬古詩 模倣・虚構・寓意	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北陸古典研究	6. 最初と最後の頁 22-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 -
2. 論文標題 妙法院宮真仁法親王の文芸交流	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『文化史のなかの光格天皇』	6. 最初と最後の頁 338-360
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 -
2. 論文標題 寛政期新造内裏における南殿の桜 光格天皇と皇后欣子内親王	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『文化史のなかの光格天皇』	6. 最初と最後の頁 287-311
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 勢田道生	4. 巻 -
2. 論文標題 『大日本史』論贊における歴史の展開と天皇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『文化史のなかの光格天皇』	6. 最初と最後の頁 187-208
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 -
2. 論文標題 中村蘭林と和歌 学問吟味の提言と平安朝の讃仰	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 『文化史のなかの光格天皇』	6. 最初と最後の頁 209-226
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 261
2. 論文標題 近世中期における「テキスト遺産」と「作者」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学 (古典は遺産か? 日本文学 におけるテキスト遺産の利用と再創造)	6. 最初と最後の頁 91-103
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 第10号
2. 論文標題 雅俗往来のなかの秋成-上方の人的交流のなかで	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アナホリッシュ國文學	6. 最初と最後の頁 57-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯倉洋一	4. 巻 114
2. 論文標題 『絵本太閤記』「淀君行状」と『唐土の吉野』	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 語文	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 -
2. 論文標題 上賀茂山本家所蔵賀茂季鷹関係資料解題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の 場 研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 34-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 261
2. 論文標題 光格天皇と本居宣長一御所伝受と出版メディアをめぐる (古典は遺産か? 日本文学 におけるテキスト遺産の利用と再創造)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 アジア遊学 (古典は遺産か? 日本文学 におけるテキスト遺産の利用と再創造)	6. 最初と最後の頁 59-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 19号
2. 論文標題 正保版『二十一代集』の変遷 様式にみる書物の身分 (付)八尾助左衛門・勤兵衛・甚四郎出版略年表	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 雅俗	6. 最初と最後の頁 4-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 41号
2. 論文標題 カリフォルニア大学バークレー校所蔵 光格上皇御点『実勲詠草』解説と三条西実勲文政期和歌年表	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 調査研究報告 (国文学研究資料館)	6. 最初と最後の頁 151-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 -
2. 論文標題 後桜町天皇と近衛内前一朝廷政治と歌道伝受	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 和歌史の中世から近世へ (花鳥社)	6. 最初と最後の頁 267-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 盛田帝子	4. 巻 97巻11号
2. 論文標題 光格天皇の文化復興一南殿の桜をめぐる一	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 16-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 -
2. 論文標題 六帖詠藻人的交流データから見えてくること 小沢蘆庵と賀茂季鷹の雅交を例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の場 研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 26-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 20
2. 論文標題 江戸時代における私家集享受と『六帖詠草』の編纂	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本文学研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 112-127
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤弓枝	4. 巻 第59集
2. 論文標題 蘆庵本歌合について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 世界仏教文化研究所論叢	6. 最初と最後の頁 89-219
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 -
2. 論文標題 柴野栗山と近衛経熙	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 近世中後期上方文壇における人的交流と文芸生成の場 研究成果報告書	6. 最初と最後の頁 11-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 35号
2. 論文標題 木下順庵と林家	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北陸古典研究	6. 最初と最後の頁 42-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山本嘉孝	4. 巻 -
2. 論文標題 目安箱と韓愈 室鳩巢における唐宋古文・朱子学・経世の連関	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 唐宋八大家の探究(花書院)	6. 最初と最後の頁 21-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 11件)

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 『摂津名所図会』は何を描いたのか
3. 学会等名 懐徳忌 (懐徳堂記念会) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 Sermons and Anecdotes in 18th -Century Japan
3. 学会等名 AAS IN ASIA (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 『絵本太閤記』「淀君行状」についての一報告
3. 学会等名 京都近世小説研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 俳諧紀行『去年の枝折』について
3. 学会等名 シンポジウム「上田秋成の俳諧を考える」（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 近世中期の読物に見える古典談義 『垣根草』と『ぬば玉の巻』を例に
3. 学会等名 早稲田大学オンラインワークショップ・テキスト遺産の利用と再創造 日本古典文学における 所有性、作者性、真正性（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 盛田帝子
2. 発表標題 平安朝内裏の復興と本居宣長の長歌
3. 学会等名 早稲田大学オンラインワークショップ・テキスト遺産の利用と再創造 日本古典文学における 所有性、作者性、真正性（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 蘆庵本歌書の成立 古写本収集という潮流
3. 学会等名 東海近世文学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Kanigata Literati Meetings in Illustrated Gazetteers and Poetry Collections
3. 学会等名 Mapping Collaborations and Networks in Kyoto-Osaka Cultural Production and Digital Humanities (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 盛田帝子
2. 発表標題 光格上皇の文化的行事およびその再興
3. 学会等名 日本近世文学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 近世後期の京都文壇 妙法院宮真仁法親王とその周辺
3. 学会等名 龍谷大学世界仏教文化研究センター学術講演会 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 『摂津名所図会』における挿絵の役割
3. 学会等名 絵入本ワークショップ（絵入本学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 上田秋成の人と文学
3. 学会等名 大手前大学交流文化講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 画賛のあり方
3. 学会等名 絵入本ワークショップ（絵入本学会）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 浪花人秋成
3. 学会等名 大阪大学国語国文学会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 雅俗再考-秋成を例に-
3. 学会等名 『雅俗』復刊10周年記念シンポジウム 雅俗論のゆくえ（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 IIKURA Yoichi
2. 発表標題 The Genji monogatari from "Literary Heritage" to entertainment: Fictionalization of classical learning during the Edo period "
3. 学会等名 EAJS Conference、European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯倉洋一
2. 発表標題 近世中期の読物に見える古典談義-『垣根草』と『ぬば玉の巻』を例に
3. 学会等名 テキスト遺産の利用と再創造 日本古典文学における 所有性、作者性、真正性（早稲田大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 盛田帝子
2. 発表標題 光格天皇と源氏物語 - 文学遺産 を軸とした江戸時代の政治復興の一例
3. 学会等名 ヨーロッパ日本研究協会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 盛田帝子
2. 発表標題 平安朝内裏の復興と本居宣長の長歌
3. 学会等名 テキスト遺産の利用と再創造 日本古典文学における 所有性、作者性、真正性（早稲田大学）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 盛田帝子」
2. 発表標題 十八世紀の王朝文化復興－物合・歌合を通して
3. 学会等名 大手前大学比較文学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 盛田帝子
2. 発表標題 ホノルル美術館所蔵『十番虫合絵巻』をめぐって
3. 学会等名 絵入本ワークショップ12
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 蘆庵本歌合集について 共同研究から見えてきたもの
3. 学会等名 和歌文学会関西例会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤弓枝
2. 発表標題 妙法院宮サロンにおける絵師と歌人の交流 呉春と蘆庵を中心に
3. 学会等名 絵入本ワークショップ12
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Pen Pals in Crime: Literary Sinitic Letter Writing in Tokugawa Japan
3. 学会等名 Yale University CEAS Colloquium Series (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 Early Edo Antiquarianism: Hayashi Gaho 's Imitation of Heian Court kanshi」、EJJS Conference、European Association for Japanese Studies、
3. 学会等名 EJJS Conference、European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 The Afterlife of Chinese Classics: How "Shi" Became "Poetry" in Modern Japan
3. 学会等名 2021 AAS Annual Conference、Association for Asian Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 山本嘉孝
2. 発表標題 The Sinitic Seuil: Classical Chinese Prefaces in Japanese Books
3. 学会等名 MLA 2021、Modern Language Association (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 盛田 帝子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 笠間書院	5. 総ページ数 122
3. 書名 天皇・親王の歌	

1. 著者名 飯倉洋一・盛田帝子(編)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 393
3. 書名 文化史のなかの光格天皇 朝儀再興を支えた文芸ネットワーク	

1. 著者名 山本嘉孝	4. 発行年 2021年
2. 出版社 名古屋大学出版会	5. 総ページ数 440
3. 書名 詩文と経世 幕府儒臣の十八世紀	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 弓枝 (KATO Yumie) (10413783)	鶴見大学・文学部・准教授 (32710)	
研究分担者	盛田 帝子 (飯倉帝子) (MORITA Teiko) (40531702)	京都産業大学・外国語学部・教授 (34304)	
研究分担者	勢田 道生 (SETA Michio) (40580668)	大阪大学・文学研究科・准教授 (14401)	
研究分担者	山本 嘉孝 (YAMAMOTO Yoshitaka) (40783626)	国文学研究資料館・研究部・准教授 (62608)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関